

カナダモンテリオール Cogsci19 参加報告

2019年8月22日

広域科学専攻（広域システム科学系）
修士課程2年 陳 啓翔（植田研究室）

私は、「博士・修士課程学生の国際研究集会渡航助成」からご支援をいただき、7月23日から7月27日にかけて、カナダモンテリオールで行われる Cogsci19 に参加し、ポスター発表をしました。Cogsci は、私の専門領域の認知科学では世界的にトップレベルの学会である。世界中最前線の研究者たちが一堂に会し、様々な最先端な問題について真剣に議論する場となっている。このような場で議論・発表のチャンスができるのは、研究者にとって貴重な経験になると考える。

私は、日本国外における学会参加およびポスター発表ははじめてなので、とても有意義で刺激的な時間を過ごすことができた。

私の研究は、人の母語の時制構造と異時間点選択の傾向を調べたものです。ポスター発表では、積極的な評価をたくさんいただき、とても勇気づけられた。また、「心理的距離」「時間知覚」という媒介変数を經由し、背後のメカニズムを深掘りすることや、より多くの時制構造を調べ現段階の結論をより広げるなど、今後の研究の方向性を提示するコメントも多かった。

ポスター発表以外に、興味深い講演会やパネルディスカッションも多かった。そのうち、去年の大会で発表賞に輝いた Michéle Chi 教授は、とても心に残る講演を開いた。現実場面における学習というテーマについて、自分の研究と考えを紹介した。学習における「インタラクション」の重要性にフォーカスし、そのメカニズムおよび実現方法などについて色々分析した。学術においてもおもしろい知見が多く、また自分の勉学にも役に立ちそうな内容もあり、非常に収穫があったと感じた。自分の研究と関連している Heuristic や Culture などのセッションも、新しい視点を与えてくれた。特に Culture のセッションで、動物実験・幼児実験などで、「Culture」の発生と成り立ちを探求する新しい考え方は、とても新鮮でおもしろかった。

今回は助成を頂いたおかげで、大変貴重な機会を得て、心よりお礼を申し上げます。



図：学会が行われるモンテリオール国際会議場